

令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録
【学校評価部会・キャリア部会・地域連携部会】

1 日 時 令和7年 5月26日（月曜日）15時30分～17時00分

2 会 場 県立横浜清陵高等学校 会議室（大、小）

3 出席者 学校運営協議会委員 7名（1名欠席）
県立横浜清陵高等学校教職員 10名

4 校長より

- ・新学習指導要領4年目 「総合的な探究の時間」研究指定校
- ・働き方改革への理解呼びかけ→時間外勤務の縮減とともに教員のウェルビーイングおよび教育の質の向上を目指していく。
- ・生徒自ら動く自治の推進→野球部をはじめ他にも拡大していく中で、学校の教育力の向上につなげていく。

5 協議内容

（1）学校評価部会（全体会）

1. 学校教育計画、グランドデザイン等について（校長）

○学校教育計画について

- ・学校教育計画、グランドデザイン、スクールポリシーは昨年度決定。
- ・学校教育目標については変更なし。
- ・「総合的な探究の時間」研究指定校3期目である。年次ごとにプログラムを組んでいた状態を改善し、内容、位置付け等の大きな柱を整理してきた。3期目は授業、部活動、行事で目に見える形で取り組んでいき、総合的な探究の時間だけではなく、授業、部活動、行事に広げながら、各年次に根付かせ、PDCAサイクルを定着させる。

2. 業務内容、昨年度の全体的な振り返り（事務局）

○学校評価報告書について

- ・令和6年度実施結果についての概要を説明。

3. 令和6年度 学校評価報告書目標設定について

○概要の説明（校長）

- ・生徒が行事や部活動において自分たちで考え、主導する点を追加変更した。
- ・3の項目（進路指導・支援）においてはインターンシップ等の参加人数を増やした。学校外に目を向けて、取組を発信し活性化させたい。

- ・4の項目（地域等との協働）においては地域貢献活動のアンケートで、活動を通して地域の一員としての意識を7割から8割に高めたい。
- ・5の項目（学校管理・学校運営）においては働き方改革を推進する。職員のやりがいが生徒に伝わるようにも努めていく。

【委員からの意見および質問】

- ・夏期講習の講座が同時間に重ならず、生徒が参加しやすいようにスケジュール調整してほしい。文系、理系など分ける配慮をしてほしい。
- ・夏期講習の規模や全体像はどのようなものか。

→今年度は7月にオフィス改善があり8月に実施か。教員のスケジュールに合わせている。

（事務局）

- ・令和6年度 進路状況 国公立大学等への進学者が0名だったのかが気になる。（委員）

→本校の生徒は国公立大学等への入試について例年5教科では受験はしていない。過去の合格者は公募制での合格であった。（委員）

国公立大学等入学の希望があるが、公募制での合格が0名であるということ。

- ・保健福祉大、横浜国大 過去に入学者あり。今後国公立大学等を目指す生徒を育成していくか。（委員）

・過去にはAOや一般で横浜国大を受験した生徒がいた。

- ・インターンシップ参加人数を増やすために、その後の発表会の設定や振り返りや身につけたことなど収穫があったのか。伝え合うシステムはあるか。（委員）

→校内で成果や取組の報告はまだないが、12月に授業での探究の発表を壇上で行った。

　　インターンシップの発表会も可能ではある。（校長）

→進路の手引きには生徒の合格体験記があるが、インターンシップの報告書や記録、意義や内容をまとめたものも生徒が読んだりできるようになるとよいのではと考える。（事務局）

→進路の成果の発表も可能である（委員）

- ・働き方改革については教員のなり手不足にも関連してくるが、教員側の努力だけでなく家庭との連携も必要ではないか。（委員）

→推進としてどう効率化していくのかがポイントである。家庭からのニーズをふまえつつ、例えば電話の対応を5時までとするなどの対応を行っている。機会を見つけて説明をお願いしながらご理解いただくことや家庭への理解をどう得るかが大切である。（校長）

→業務改善の視点を持つこと。システム導入されて少し改善はしてきているものの標準化できていない。業務の効率化のためにも、グループ間や教員間の引き継ぎが必要である。

（事務局）

- ・ICT特に生成AIにおいて教員は業務改善に活用できるが、生徒が生成AIを学習効果としてどのように活用しているか。（委員）

→生成AIの不適切な活用を避けるため、なるべくその場で書く、その場で説明を言葉でさせる指導をしている。

→社会科ではその場で書くことを重視した表現活動を行っている。 (事務局)

(2) キャリア部会 (本校におけるキャリア教育の課題、改善点についての協議)

○本校のキャリア教育の現状について (事務局)

・大学進学希望が8割を超え、専門学校17%と2割を切った。今年の3年生50/305人が専門学校希望、残りの生徒は大学進学という内訳。

・生徒はこれまで指定校で受ける生徒が多かったが、総合型選抜を受ける生徒が一昨年の19%から昨年度は34%へと増加した。総合型選抜でも併願が可能になったことが要因ではないか。

しかし、総合型選抜を選ぶ生徒が増えたからといって、受験する生徒層のレベルが上がったわけではない。合格率は70%程度。今年の3年次は総合型選抜を選ぶかどうか、2年目の変化に注目していきたい。

・今の3年次生は1年次生から全国模試をやり始めた最初の代である。GTZ B3 (神奈川大学等に受かるといわれている層) が6割程度いるものの、毎年学力帯が下降傾向にあるので、下降させないための取り組みが必要である。一方で、現2年次生は下がらず、数学については伸びている。なぜ3年次生は下降し、2年次生は下降していないのか、その理由を分析することが必要である。本校の生徒は自分で学習する習慣が十分に身についていない者が多く、課題を用意すると取組むことができる。自分から取り組める生徒は進めていて、自主的に取り組むことが苦手な生徒は取り組まないままなので下がっているのではないか。自分が行ける大学ではなく、行きたい大学に行けるように、目的意識を持って進学先の選択ができるように支援していくことがこれからの課題である。

・国公立合格者ゼロだったことについては、総合型選抜で受験する生徒が増えたこと、また早くに合格を決めたいという傾向にあることから、最後まで頑張る必要のある国公立を希望しなかつたことが要因かと思われる。進学準備が8%から10%と数字が上がったが、志望校のランクが上がったためであり、行きたい大学を目指した結果なので、本校としてはマイナスなこととしては捉えていない。

【委員からの意見】

・大学というものへの基本的な知識が足りないのではないか。大学への興味を持たせ、生徒らが将来のことを考えたり、大学の学園祭に行くなど動機づけをする必要がある。

・総合学科時代に「産業社会と人間」という科目があった。職業調べや大学調べなどを取り入れてもいいのではないか。主体性を大事にしたいという清陵高校の目標に対して、課題を大量に出すのではなく、生徒本人がどう生きていきたいかということを考えるための動機づけが大切なのではないか。

(3) 地域連携部会

○昨年度の「地域との協働」について

- ・地域清掃を年1回行っている。文化祭で地域との交流をする。（事務局）
- ・普段の生徒の様子を見ながらご意見等頂戴できれば嬉しい。（事務局）

【委員からの意見】

- ・清陵高校周辺には地区の連合が2つ（東部・南太田）あるが、清陵高校からの働きかけが少ない。昨年度は野球部の応援、支援のことで関わりが持てたが、高校への坂道などで制服姿の生徒から挨拶がほとんどないので、もっと地域への働きかけや触れ合うような活動を持ってほしい。
- ・近隣の高校は校舎を利用して高齢者の方にパソコン講習などを行っている。坂道にバスを巡回させる計画があるが、アンケートを実施する際には、清陵生の協力もお願いしたい。バスが利用できるようになれば、そのような活動をするはどうか。
- ・夏休みの保育園実習では、礼儀正しくインターンシップを行っていて好印象である。学生には子供たちとのふれあいに期待している。後継者不足も課題なので、保育士の仕事に興味を持ってほしい。今後インターンシップを活性化してほしい。
- ・吹奏楽部の発表会を地域の町内会館や町内会館横の屋外円形広場で実施し、交流できたらと思う。屋外劇場はいつも空いているので利用してほしい。

(4) 学校評価部会（全体会）

- ・キャリア部会および地域連携部会からそれぞれ内容報告（（2）（3）参照）。
- ・普段の生徒の様子を見ていただいて今後もご意見をいただきたい。
- ・校長からの挨拶と今後の協議会の予定を確認した後に終了。